

授業科目	権利擁護を支える法制度				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	後期				
担当教員	木村 茂喜										
授業概要	<p>認知症の高齢者や、知的障害のある者など、判断能力が低下した人は、さまざまな場面で権利侵害を受けやすく、また、いったん侵害された権利の回復も困難である。福祉従事者はこのような人々の権利を擁護するのみならず、このような人々の立場に立って、このような人々の意思決定や権利行使を支援する役割を担うことになる。</p> <p>本講では、福祉専門職にとっては不可欠な知識である、権利擁護に関する様々な法制度について学習する。</p>										
授業形態	講義	授業方法	学生の講義内容の理解度を確認するため、講義中および講義終了時に Google Form を使った確認テストを実施する。								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要な知識となる憲法・民法・行政法の基礎について、ある程度理解している。(DP1-1, 1-2) ・成年後見制度をはじめとする、権利擁護に係る諸制度についてある程度正確に理解している。(DP1-2) ・社会的に支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際ならびに権利擁護に係る各組織・団体および専門職の役割および責任についてある程度理解している。(DP3-1) 										
理想的レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助活動において必要な知識となる憲法・民法・行政法の基礎について正確に理解している。(DP1-1, 1-2) ・成年後見制度をはじめとする、権利擁護に係る諸制度について正確に理解している。(DP1-2) ・社会的に支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際ならびに権利擁護に係る各組織・団体および専門職の役割および責任について正確に理解し、適切な支援のあり方について考察できる。(DP3-1) 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合 (数値)			備考							
試験	50%										
小テスト	30%										
レポート											
発表 (口頭、プレゼンテーション)											
レポート外の提出物											
その他	20%			各講義終了後、学生より提出されたコメントの記述内容に基づき評価する。							
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE21221J
学習課題 (予習・復習)										1 回の学習目安 (時間)	
予習：テキスト該当部分に目を通す 復習：テキスト該当部分・レジユメの見直し										4	

授業計画	
第1回	テーマ：イントロダクション、権利擁護とは 講義の進め方について説明し、権利擁護について学ぶ意義、法の基礎知識について解説する。
第2回	テーマ：日本国憲法 日本国憲法の概要について、基本的人権の保障を中心に解説する。
第3回	テーマ：民法の基礎(1)契約 契約の締結、契約が有効となる要件、代理、消費者契約について解説する。
第4回	テーマ：民法の基礎(2)不法行為、親族、相続 不法行為、親族・扶養、相続について解説する。
第5回	テーマ：行政法の基礎(1)行政行為 法律による行政の原理、行政法の存在形式、行政行為とその効力、行政裁量、行政上の強制措置について解説する。
第6回	テーマ：行政法の基礎(2)行政手続、行政救済 行政手続、行政不服申立て、行政訴訟、国家賠償について解説する。
第7回	テーマ：成年後見制度(1)成年後見制度の目的、成年後見の概要 成年後見制度の目的、成年後見の対象者、成年後見人の権限と職務について解説する。
第8回	テーマ：成年後見制度(2)保佐・補助の概要 保佐・補助の対象者、保佐人・補助人の権限と職務、成年後見人等の基本的な義務について解説する。
第9回	テーマ：成年後見制度(3)審判手続、成年後見人等（オンデマンド） 後見開始等の審判手続、成年後見人等の資格と報酬、成年後見監督人等について解説する。
第10回	テーマ：成年後見制度(4)任意後見制度 任意後見制度の概要、任意後見契約、任意後見人監督人選任の審判手続、任意後見人の職務について解説する。
第11回	テーマ：成年後見制度(5) 成年後見制度の動向、成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業 成年後見制度の動向、成年後見制度利用支援事業の概要、日常生活自立支援事業の概要について解説する。
第12回	テーマ：虐待防止法の概要 虐待防止法に基づく、被虐待児童・高齢者・障害者それぞれへの対応と支援について解説する。
第13回	テーマ：権利擁護に関わる諸制度 福祉サービス給付における苦情解決制度、インフォームドコンセント、プライバシーと個人情報保護について解説する。
第14回	テーマ：権利擁護に係る組織・団体、専門職 権利擁護にかかる各組織・団体、専門職の役割について解説する。
第15回	テーマ：権利擁護の課題 意思決定支援ガイドライン、成年後見制度の利用促進を中心とした権利擁護システムの課題について解説する。
テキスト	都村尚子編著『権利擁護を支える法制度』（ミネルヴァ書房）

	<p>そのほか、毎回の講義開始前に、レジュメを配布する。</p>
<p>参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介</p>	<p>ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法 2024[令和6年版]』（ミネルヴァ書房） そのほか、第1回目の講義時に、講義を理解する上で参考となる諸文献を挙げる。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>小テストは提出後すぐに解答と解説が返却される。 コメントカードに書かれた質問、意見については、次回の講義の冒頭で回答や補足説明を行う。 定期試験終了後、解答例をClassroomに掲示する。</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>法学（1年前期）および日本国憲法（1年後期）を履修していることが望ましい（履修していなくても受講は可能）。 講義終了時に次回の講義で扱う教科書の範囲を示すので、次回の講義までに各自目を通しておくことが望ましい。また、講義後には各自でその日の講義内容について復習をしておくこと。</p>